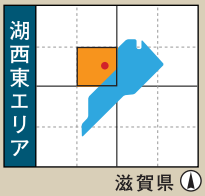
史跡
国指定

藤樹書院跡（とうじゅしょいんあと）

安曇川町上小川　大正11年3月8日指定



中江藤樹は、日本の陽明学の祖として有名で「近江聖人」として親しまれています。藤樹書院は、正保5年（1648）に門弟や村人の発起で建てられました。中江藤樹の門下では熊沢蕃山などが有名ですが、大塩平八郎や西郷隆盛なども、陽明学の影響を受けたとされています。現在の書院は明治15年（1882）に再建されたものです。

当時のできごと	
1607年	家康 江戸から駿府に移る
1648年	江戸市中法度を定める
1882年	日本銀行開業



藤樹書院全景

藤樹書院の概要

中江藤樹は、自分の住まいの書院を陽明学の講学の場としていましたが、次第に門人が増え、手狭になったため、門弟や村の発起により、新たな書院を住まいの隣に建てました。藤樹が死去するおよそ半年前のことです。藤樹の没後は、私塾としての機能はなくなり、藤樹の位牌にあたる神主（しんしゅ）を祀る御堂として、地元小川村の人たちの手により守られてきました。

この建物は、明治13年（1880）の小川村の大火災により焼失してしまいますが、２年後には、藤樹の教えを実践する村人達の努力により再建されます。現在に残る書院はこの時に再建された建物です。

幸いにも藤樹の神主や書、書籍など多くの遺品は類焼を免れ、現在、「近江聖人中江藤樹記念館」に保管されています。

中江藤樹について

中江藤樹は慶長13年（1608）高島郡小川村（現在の安曇川町小川）に農家の子として生まれますが、武士であった祖父の養子となり、米子、大洲に移り住んで郡奉行を務めました。27才の時、母の看病のため郷里に帰ることを願い出るも許されず、脱藩し、小川村に戻り、母への孝養と、学問の研鑽、門弟の教育に専念します。初め、朱子学を学びますが、37才の時に「王陽明全書」により陽明学に触発されて以来、独自の学風を深めてゆきます。身分を超えて農民にも教化し、「近江聖人」として尊ばれ親しまれました。慶安元年（1648）持病の喘息のため41才の若さで亡くなりました。

藤樹が没した後もなお、人々は「近江聖人」と彼を崇めたということです。



藤樹書院旧図（宝暦9年）

［陽明学］

明代の政治家であり儒学者であった王陽明（1472～1528）とその一派が提唱した学説です。明代は朱子学が官学として重要視されていましたが、半面、思想上の活力を失い、形式的になってきていました。これに対し、陽明学は、実践を通して形成される個人の心の主体性を重要視しようとするもので、「心即理」（人の心のはたらきが道徳の原理です）「致良知」（人が生まれながらにして持ち合わせている道徳的な判断力を働かせなさい）「知行合一」（知識と行動は一体のものです）がその思想の柱となっています。



藤樹書院入口

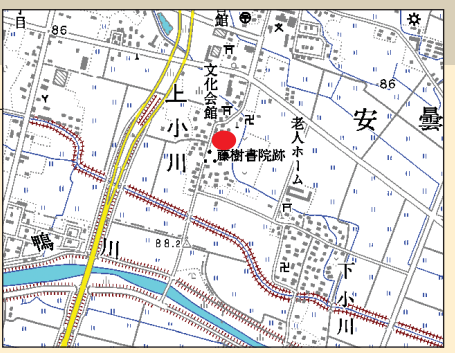
関連する文化財

藤樹神社（安曇川町）	中江藤樹を祀る神社
伊藤仁斎宅ならびに書庫（京都府）	伊藤仁斎の旧宅。史跡
緒方洪庵旧宅および塾（大阪府）	緒方洪庵の塾の跡。史跡
松下村塾（山口県）	吉田松陰の塾。史跡

もっと深く知りたい

近江聖人中江藤樹記念館　☎0740-32-0330　高島郡安曇川町上小川69

藤樹書院跡へのアクセス　JR湖西線　安曇川駅下車



【参考文献】〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月